



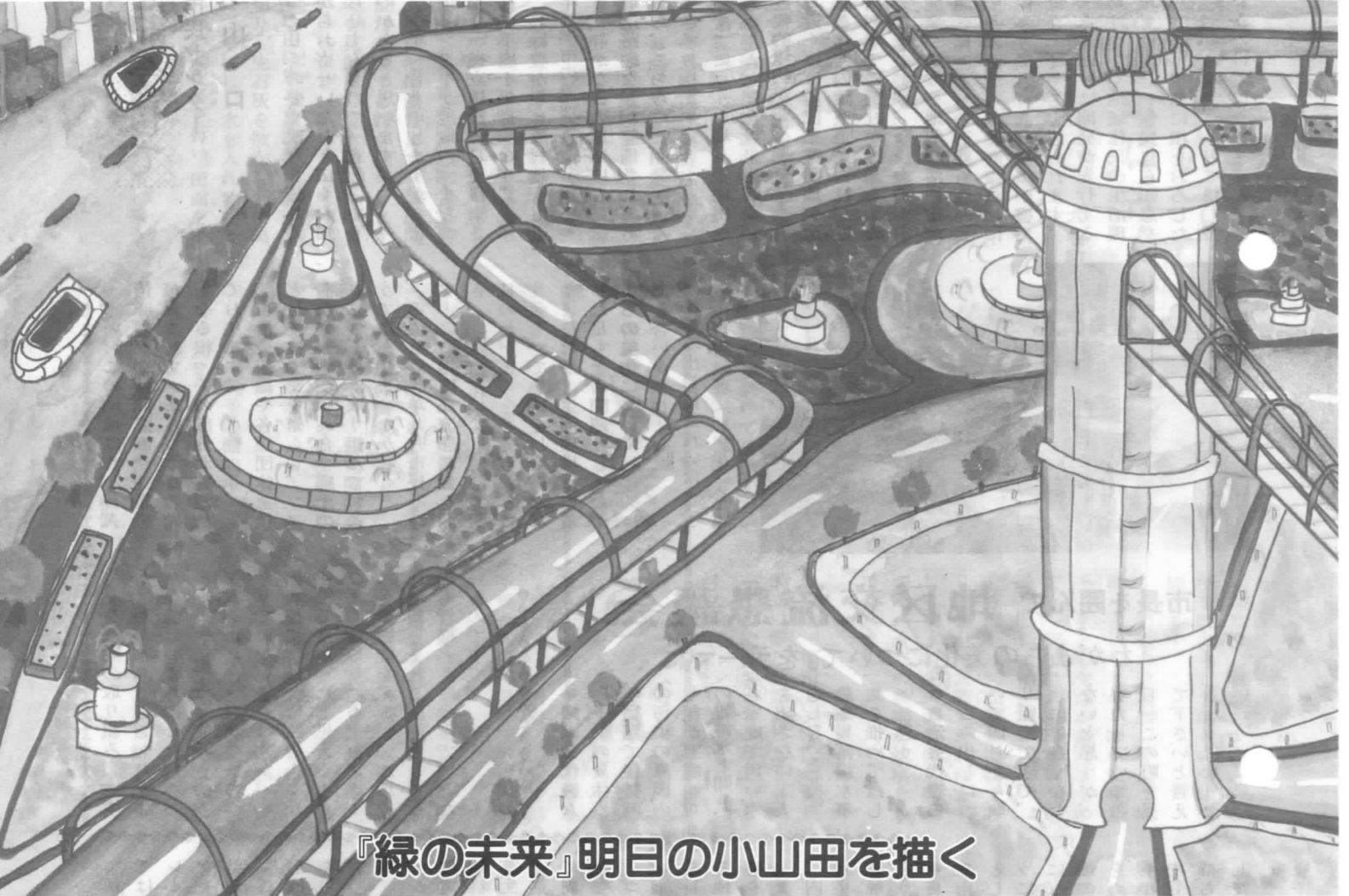
地区広報

おやまだ

第 10 号

平成2年3月10日

記念号



『緑の未来』明日の小山田を描く

絵と文・西陵中2年 森本 亜希

現在の小山田は、まだ発達しているとは言えない、緑が沢山残っている地域です。

今的小山田から未来の発達した姿なんて、とても想像できないし、それに小山田が発達してしまつたら、この緑もなくなつてしまふのではないかと思つて、『絵』に表すまでも時間がかりました。

そんな気持ちで描いたこの絵のテーマは、『緑の未来』です。

近い将来、小山田にも大きな道路、いろいろな施設、沢山の工場が出来るかもしれません。

でも、開発のために自然の緑を壊してしまふ街ではなく開発を進めていくと同時に、みんな力で合せて『緑が、いっぱい』の街にしていきたいと考えて、このテーマを思いつきました。

自然の緑が沢山あれば、みんなの心も優しくなれると思うし、いろいろな場所から、いろいろな人たちが自然に集つて暖かい楽しい街になれるような気がするのです。

人も、街も、いろいろな面で発達していく小山田になつてほしいのです。

私のこの気持ちが、『絵』を見てくれた人に少しでも伝われば嬉しいなと思います。

おもな内容

- ② ③ 明日の小山田を考える
- ④ ⑤ フォトグラフおやまだ
- ⑥ 寒風に拍子木・火の用心
- ⑦ 珍しい「播きたて」稲作
- ⑧ この人尋ねて

地区広報10号を記念して

小山田地区市民センター

館長 山口 薫



地区広報が発刊されて、十年目の節目を迎えました。毎年度末に一回発行してまいりましたが、皆さん読んで頂いているでしょうか。

この広報は一年間の地区における行事などの成果や反省の総決算であると共に、新しい年に向けての「郷土のま

田を考える

人ホーム、記念温泉病院など近代的建物が並んでおります。近くには南部工業団地が造成され、内陸型企業六社が進出、すでに三社が操業を始めておりますが、今後ますます開発が進み、地域の活性化が図られ、まちの形態も変わって各方面から人々がこの地に住み、働き、人の交流が盛んになってくると思われま



づくり」の夢や決意を皆さんからお寄せいただき広くお知らせするもので、意義深いものがあると思います。

十年一昔と申しますが、市民センターが地域の「まちづくり」拠点施設として移築されて丁度十年目になります。

この緑豊かな、農村地帯も近年は都市の急速な発展と相まって、静かなこの地域にも、広域道路網などが整備され、あちら、こちらにと開発が進んできております。

幸い、この地域は昔から人情味豊かな仲間意識や連帯感が育まれて、まちづくりの礎となる根っ子の部分が養われております。

自治会組織や各種団体を核として枝や葉を繁らし、ソフトな人と人がふれ合う郷土のまちづくりに取り組んでいこうではありませんか。

そのため昨年九月市民センターにて地区交流懇談会を開き、地域住民代表の方々に「明日のわがまちを考える」というテーマで懇談をしていただきましたが、生活環境に密着した足もとの問題としてわがまちの美化について具体的に話し合いがされました。

「ごみ出しはきれいに」「ごみの自家処理（堆肥化）」と花

市長を囲んで 地区交流懇談会

『わがまちの美化について』をテーマに

●自治会代表B
ごみ出しについて四月から取り組んできて、急には良くならないと思うが、努力していつの日かこの町を見て下さいと言えようになりた

●自治会代表C
南部理立処分場を持つ地区として、生ごみは出さないようにしたい。畑に埋めて肥料にし、花を作ったらどうか。花畑のある町、生ごみのない町をめざして。

●小学校PTA代表D
子供達にも、ごみを見たら持ちかえるような呼びかけをしていけたらと思う。

●婦人会代表A
子供の夏休みの宿題で伊勢湾の汚染の原因の七割が家庭からの雑排水と聞き、各家庭で汚い水を出さない工夫をしたいと共に、農業集落排水事業を推めてほしいと思う。

●小学校PTA代表D
芝生に変わっていき、赤茶けた松林も消えて周辺の風景も一変してしまいました。ゴルフ場では、プレーヤーの方から従業員として働いている地区民の人柄に好感を持たれております。

●小学校PTA代表D
まだ手探りの状態ではありましたが町の協力も得られましたので目玉事業として進めていくもので、この春より本格的に花づくり運動に取り組んでゆきます。

づくり運動の取り組み、さすが「わがまち」と言われるような美しいまちにしたい」と……そんな郷土のまちが真の人と人がふれ合う豊かなまちづくりではないでしょうか。そして、そこに住む人々が住んで良かったと思えるようなまちづくりに市民センターは十分機能を発揮し、地域住民に親しまれる施設として今後も皆様と共に歩んでいきたいものです。

私の住む内山町のゴルフ場では青々とした芝生の上でプレーヤーとキャディーが終日、ゲームを楽しんでいる光景が見えます。

咲きます。今一つ地区では花づくり運動が芽生えてきました。昨年の地区交流懇談会のテーマは「わがまちの美化運動について」でありました。

花づくりで豊かな心

—内山町からの報告—

自治会長 矢田 哲

その内容は「ごみ処理等の問題」で各自が日頃どのように考えているか、意見が交換されました。

明日の小山

明日の鹿間町

身近な環境を守ること

自治会長 市川 正 徳

昭和三十二年、鹿間町が小山田地区に編入されてから、三十三年を経ようとしている。

そのルーツは、鈴鹿郡久間田村大字鹿間であります。

振りかえれば、小山田の中学三年生と久間田の中学三年生が共に机と椅子等を持ちよって始まった三鈴中学校の跡地も今では私の店(ガソリンスタンド)から眺めれば南部工

化が言われていますが、特に牛肉においては、丸紅、三井等の資本力のある日本の総合商社がオーストラリアの広大な土地を買い、霜降り牛肉の生産に励んでいます。(世界の

「三化の時代」とよく言われます。国際化、情報化、高齢化のことです。

では「三高」とは、今日の若い女性の男性への結婚条件です。高い学歴、高い所得、高い身長のことです。

で、よく耳にされると思います。農業に従事して、少し位のマイナスなら「逆境に耐える」などと、気どって頑張れば良いのですが、結論から言いますと、たとえ三高が揃っている農業者であっても、先ず、社会的に色々な事をする時間の余裕がないと考えます。今、牛肉、オレンジの自由

若い農業者の現代感

二三高(高学歴・高所得・高い身長)に対して

美里町 津田 卓也

五大穀物商社、カーギル・コンチネンタル……などはもちろんです。

日本の牛肉生産農家は、世界のアグリビジネス企業だけでなく、日本の商社とも競争しなければならぬのです。また、米の自由化が行われ

民謡等の楽しい催しを集落センターで行っています。私の住む地区でも、平成元年の初期に「老人会」を招き「鹿間町カラオケ・舞踊大会」を行い大変喜ばれました。

この催しを行った事は、私なりに地区民のなぐさめになつたと自負している次第です。

今後は、鹿間町もこの小山田地区全体においても何らかの企業の進出があると思いきすので自分達の住む町だけでなく全地区の自治会の連結を図っていただきたい。

私達の「身近な環境を守ること」が自治会の役割であると思っています。

う巾広い教養も身につける事はできません。身長だけはどうしようもありませんが。

明日への農業後継者として時代に対応すべく、努力していきたいと思ひます。

境に必ずなると思ひます。今後「専業でやるのだ」という者は当然、流通改革に参画しなければなりません。パソコンを中心としたオートメーション機器を使いこなすことが必至です。

しかし機械化さえすれば、誰でもできるといった類の農産物であれば、資本力のある大企業が、土地と人件費の安

私達は、こういう中でサラリーマンの若い男と競争しなければなりません。現状はきびしいですが、三高のうち、高所得は頑張つて農業者として地位を固めることでついてくると考えますし、色々学習するうちに学歴とは次元の違

今後は、物や金に恵まれ過ぎる位恵まれ、「思いやり」「助け合い」の連帯感が薄らいできつてあります。

この小山田地区は農家が多く農業もしながら、外へも勤めに出、家庭ではお年寄りの面倒を見ながら、子育てと言ふような婦人が多い様に思ひます。

婦人会活動から

そんな多忙な婦人が多い地区ではありますがそれぞれの家庭の中心的役割の立場の主婦が少しでも余暇を利用して、利己主義的な自分の家庭さえ良ければ……と言ふ考えから、今後ますます、明るく豊かな小山田地区の社会づくり」に目を向けて頂き、婦人の方々を通じて、

「小山田地区発展」のために、婦人会活動が「共同精神」や「仲間意識」の芽が育つきっかけになれば、幸いと思ひます。

そして小山田地区が少しでも住み良くなれば、きっと、それぞれの家庭も良くなる事を確信しております。



地区大運動会



▲うまく演奏するから聴いてね



▲ゴールまで仲良く走ろう



▼このすばらしい作品をみて

おやまだ

7年度

地区文化祭



▼ソフトボール場ができました(南部工業団地隣り)



▲この一球ゲートインするか



茶道
お手前とおりに



生花
これでいいかしら



書道
筆運びはいかが

在宅ひとり暮らし老人の集い



新春囲碁大会



手編み講座…先生こどう編みますか？

▶足元に気をつけてね



陶芸教室…思いどおりできますか？



子供料理教室…おいしいのできそう！



正月料理講座
家族に手料理を



わら草履作り…おじいちゃんこれでいい？



新舞踊
ハイ手を上げて



ちぎり絵
こんな感じで



楽しい サークル活動 から

があります。
どうぞお仲間にご参加ください。

寒風に拍子木

火の用心が続けて二十年

和無田町子供育成会 辻 太多三

節分が近づくと、カチカチと拍子木の音、「マツチ一本火事の元」と元気な子供達の声が町内に響きわたる。

昭和四十四年から、子供会活動として行っている夜回りである。

子供達は防寒着に身を包み全員七時半に集合、二班に分かれて、役員さんの引率で約三十分かけて町内を一周する。

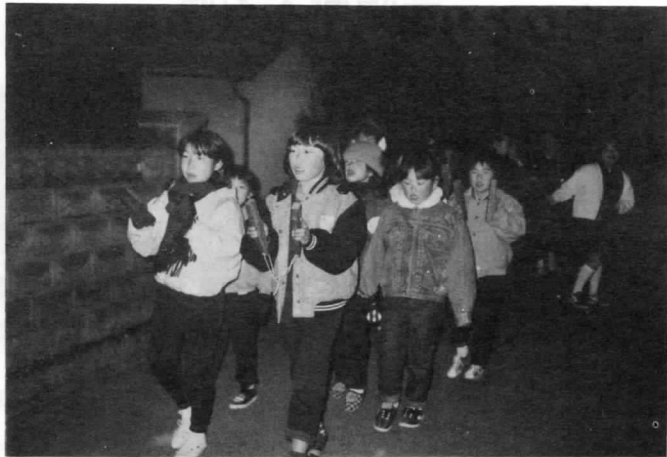
この時期は空気が乾燥しているため、火災が発生しやすい

ため、全国的にも色々な「火災予防運動」がされている。

学校でも、防火訓練・ボスター等・火災予防活動が実施されています。

子供達も皆防災意識が強く、自分の町内からは絶対に火を出さないと張り切って、夜回りを楽しみにしている。

最終日の二月三日は、皆で温かい物を食べたり、豆まきをして、町内の無事を願う。おかげで今日迄、町内での



火の用心の声高く、夜回りががんばりました。

火災は一件も発生してはいない。今後この活動が火災予防に役立てば幸いであり、地域とのかかわりが少なくなっている現在、こうして皆で力を合わせることが、子供達にとっても有意義だと思っ次第です。

「子供の手による子供会活動」をテーマに、何もわからない私が役を受けて一年が過ぎようとしています。

廃品回収、空カン拾い、野外活動、ラジオ体操、クリスマス会等々、行事を消化させてはきましたが、これだけでは真に子供のためになっていないのでは、と感じている今です。

今の子供達は自分で物事を考えたり、行動したりしない、誰かに指示されないと動かない「指示待ち人間」が多いのに驚かされました。

自分勝手な行動をとる子供、下級生の面倒を全くみない子

町内夜回り「ガンバロウ」

和無田町 中田一盛

二月一日、夜回りがはじまる。ぼくは、七時半までテレビを見てから、いそいであつまる。

女の子とどちらが速く終わるかいつもしようぶする。

はじめは「火の用心、マツチ一本、火事の元」とまじめに言っているけど、だいたい

つと、「ガスこんろ、一回使えば、ガスこんろ。」と、意味のわからないことを言っています。最後の日は、節分なので楽しみます。

供の多いのも、又同様です。

昔は、上級生との遊びの中で、良い事と悪い事、安全と危険とを自然に体得していたように思います。しかし、最近の子供は学年

遊びの意義を認める子供会活動がとても重要になってくると思います。

次代を担う子供達の育成は町づくりの重要な課題であり、自主性をもった「小山田っ子」

子供ってなあに!!

山田町子供育成会 長田春樹

を越えた集団をつくらなくなりました。勉強に追いやられ社会参加の機会を失い、異年令の仲間との遊びや生活の時間が奪われているのです。

この現状では、集団活動や

を育てる運動を起すのも育成会の大きな仕事の一つではないかと思えます。

昨年の行事を一つ削ってでも、地域全体で、悪い時には「しかる」良い時には「ほめ

息子が居て、嫁や孫が居て日常の生活に何の不足もないが、なんとなく寂しくたまらない。

周りは知らない人ばかりで声をかけてくれる人もいない。散歩に行きたくても地理も何も判らない。身体にも自信がない。従って

部屋の様子を見るより仕方がない。これは住み馴れた故郷を後に、都会にいる息子さんの家に入った老人の場合である。

与話情蚯蚓戯言

山田町 西米蔵

ど老後の幸せの一つの条件である。こうした心情に反して住み馴れた土地を離れざるを得ないのは淋しい限りである。

世の中の経済構造、社会の仕組み、家族制度、生活様式等の違いがいろいろの不都合

る「運動を地味地に続けてゆくことや、小学校で取り組まれているあいさつ運動に地域住民一人一人が協力し、みんなでおはよう」の声かけ運動を地域に広げていく事も育成会の役割の一つであるかと思えます。

家庭での「しつけ」は言うに及びませんが、地域の皆様の子供に対するきびしさと、思いやりも不可欠なるものと思われまます。

未来の小山田を背負うべく現在の子供達を「健全に育てるため」に今一度、道行く子供達に目をむけてやってほしいのです。

を生んでいる。今、「地方の時代」とか「ふるさと創生」とか言われるようになったが、老人にとって本当に安心して、身も心も委せられる地域こそが「ふるさと」と言えるのではないか。私達を取りまく環境・状況に合った地域独自の対策が老人問題なども含め

て、施設なり、対策が進められているのも事実なので心強く思っているが「ふるさと創生」は世の様変りに追いつくだけでなく、みみずのたわごとも耳を傾けてほしいと願っている。

珍しい「播きたて」稲作

六名町に古くから……

六名町 田中弘治郎



三十七年（一九六二年）の耕地整理により、農業用水の不足が解消されてゆくとともに古くから伝播していたこの「播きたて栽培法」も自然に実施されなくなり、三十年近くが経過していききました。

今回、この調査により六名町の農法が全国的に珍しい稲作であった、昔を振りかえつてその当時の作業方法を今一度、お話して記録にとどめておきたいと思います。

水稲「播きたて栽培法」

私の住む、六名町へ昨年（平成元年）八月二十九日に国立歴史民俗博物館館長福田アジオ氏が訪ねて来られました。館長は、六名町に古くから伝播していた水稲の「播きたて」と言う特色ある稲作方法についての資料調査でありました。

この直播きの稲作は、三重県でも鈴鹿から内部川流域にかけて行われてきたもので、全国的に見ても四、五カ所しか実施されておらず、非常に特色ある農法であることがわかりました。しかし、六名町では、昭和

畦間は、一尺（三十糎）位です。その条に一カ所、数粒の種籾を五寸〜六寸（十五〜十八糎）位の間隔に播きますが覆土は行いません。一枚の田圃全部に播き終りましたら、水を静かに入れます。急に大量の水を流し込みますと種籾が動いて株間が整いません。

六月中旬頃に密生している所を間引きして疎らい所に補植します。その後の管理は、普通、植田と同じですが、雑草が幾分多く生える欠点がありますので、一回位は大目に草取りを行います。

収穫量は、二割位増収であり作業が少人数で行われますし、用水不足の調整にも役立つため多くの農家が栽培をしております。

以上、福田アジオ氏の資料調査に際しお話をしたうちの一部を紹介させていただきます。

小山田軽費老人ホーム 笠井春風

山肌の鉄塔照す冬西陽 豊かなる

日の光うけ木の芽ぶく 春浅し植田の準備老農夫

小山田軽費老人ホーム 小野志ほ

窓越に寒月中天に冴えてをり

小山田軽費老人ホーム 加藤ふき

北風の 吹く夕ぐれにカラス啼く 鉢植の白き梅花部屋に匂う

小山田軽費老人ホーム 松岡婦美子

初日の出ゆたかな町に燦然と 新春の光に揺れてリボンの子

小山田軽費老人ホーム 村瀬至成

立春や佛足石の冷めたさよ

小山田軽費老人ホーム 松岡婦美子

エレベーター扉が開く暖かき 雑炊いたゞき顔みなあかし

木枯らしにコーヒーゼリー さくらんぼゆらゆら揺れて 美味しく昼を

川柳

山田町 矢田春美 勲章も肩書も無く歟光る 農政に目覚め飛出す井の蛙

山田町 矢田照子 お鏡と 言われ兄貴が背のびする 忘れては ならない土にある温み

花の命 小さい種に水の恵み 芽は出て育つ一粒に 恵みの太陽伸びてゆく 小さな葉が出て花の芽が 可憐に一つ咲き出しぬ 色も美しく一筋に 花の命の尊さよ

詩

小山田軽費老人ホーム 松岡婦美子

俳句

文芸らん

小山田軽費老人ホーム 俳句同好会

雲の峯水無き川をわたるなり

よく肥えて

山羊の親子の柵の中

鳥飛んで

春日ゆさぶる茶園かな

下校する 子等の叫びも冬めきて

寒灯や留守居の女の髪白き

風花や鈴鹿七岳峰白し

さみしさも

よきこともあり餅を焼く

短歌

山田町 矢田敦子

日の目見し藤ノ木古墳の 出土品べールを剥ぎて

眩ゆかりけり

石棺に千三百年埋もるとふ

古人の謎に我魅せらるる

この人尋ね

⑤

優雅で高貴な洋蘭 カトレヤに魅せられて

小山町 豊住 勲さん

日々の生活が大きく変化してゆく中で、私達はより豊かで余裕のある生活を望み、生きがいのある充実した毎日を送りたいと願っています。

今回は、小山田地区で洋蘭づくり三十余年、現在温室二棟(一・二二㎡・三三㎡)を有し洋蘭一〇〇〇余鉢(その内カトレヤ八〇〇鉢)を持ち、栽培、研究を今日も元氣よく続けている小山町の豊住勲さん(三)を尋ねました。

花づくりに ついで

昔、製糸工場に勤務し養蚕関係の仕事に従事、員弁方面に二十余年程駐在員として蚕に関する指導をしてきた。

花については、農学校出身であるので、庭でいろいろ



花については、農学校出身であるので、庭でいろいろ

ろな花づくりを続けています。

昭和三十四年当時より、洋蘭の栽培を手がけるようになり、苗を通信販売で購入して育て始めた。

この時期は、まだ栽培技術も明確なものがなく、洋蘭の研究をする人も少なくめずらしがられた。

昭和四十五年の停年後、自宅に温室を建て本格的に洋蘭づくりに取り組んだ。

洋蘭の中でなぜカトレヤを選ばれたのか

洋蘭は種類が多くありますが、「カトレヤ」は花が立派で気品をそなえた点では洋蘭の中の王者であり、あらゆる「花の王」と言われるのでカトレヤを選んだ。

カトレヤの栽培について
カトレヤは、貴族の花、資産家の花と言つイメーシがあつた。

この「高嶺の花」も時代が移りビニールの普及、メリクロン(成長点培養)によつてその苗が安価で手に入るようになってきたことが愛好者の興味をよび栽培技術も前進した。

現在では、

大量生産され、鉢花、切り花として花屋の店舗に飾られ、多くの人々に贈りものとして喜ばれる花となっている。

洋蘭の管理 について

温室には、カトレヤ、デンドロビウム、シンビジウム、オンシジウム、胡蝶蘭等を栽培しており、室温は十五度に保っている。

夏の管理は、涼しい状況をつくるため湿度、温度への注意、寒冷紗の使用、鉢を室外へ出す等……

冬の管理は、灯油による暖房で室温を保つ、水やり等：苦労は数多くあるが、こうした後、カトレヤが大きく成長し、優雅な花が咲くのが唯一の楽しみである。

いろいろな洋蘭の今昔話とカトレヤづくりの苦労を伺いました。

花は、その色合い、姿、形で人々の心を豊かな気分にならせてくれます。

豊住さんは、これからもカトレヤづくりを続けられますので、近くを通られたら是非、温室に立ち寄って下さい。

見学者歓迎でカトレヤの話



好きな素敵な「花咲かせ爺さん」です。

お元気で今後もすばらしいカトレヤを栽培して下さい。

地区の人口 5,785人

(平成2年1月1日現在)

町別	世帯数	人口		計
		男	女	
山田町 (含老人ホーム)	908	930	1,171	2,101
西山町	161	302	335	637
小山町	144	298	309	607
内山町	54	103	120	223
六名町	49	100	99	199
堂ヶ山町	107	241	250	491
美里町	34	95	88	183
鹿間町	250	449	475	924
和無田町	96	203	217	420
計	1,803	2,721	3,064	5,785

未来にも愛してほしい 日本の歌

山田町 矢田まさ子

私はとても淋しく思いますので、今も忘れずにこの曲を流して下さる、小山田小学校の先生方に、いつも感謝しております。本当にありがとうございます。

未来を担う、まだ幼い孫や若者達が、この素晴らしい「日本の唱歌」や「ふるりの歌」を愛し、生かして下さいますことを私は心から願っています。

ふる里を温く見守る
未来の子
未来の子
未来の子

編集後記

◎ 地区広報紙おやまだ(第十号)記念号をお届けします。

◎ ご寄稿いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

なお、紙面の都合上、原稿の一部を割愛させていただきましたが、あしからずご了承ください。

◎ 今後とも編集に努力して愛され、親しまれる広報紙となるように、頑張りますので皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

地区広報委員会
小山田地区市民センター